



見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	離 が			い つ			
					自分	地域	行政	今から	その時	被災後	
避難場所	道が狭く、消防車が入ってこれない	街灯がない為、夜歩けない	スムーズな避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とっさの時に逃げる場所への案内</li> <li>・指定された避難場所への案内は可能</li> </ul>							
	狭い道路が多いが、ふさがるので困る	避難場所が確実に周知されていない	避難場所への距離								
	塀が倒れるのが怖い										
家屋・火事	倒壊による火災	家屋の倒壊	家屋の倒壊	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期消火対策</li> <li>・消火器の全戸配布</li> <li>・消火器の使い方の訓練</li> <li>・実際に使ってみる</li> </ul>			○	○			
	火事の発生	火事の初期消火	古い建物が多い場所のくずれが怖い		○	○	○				
	火災における初期消火の指導	家屋内の落下物による被災	家具の固定等はお年寄りには困難		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレーカーをおろしておく</li> <li>・寝る前に元栓を切る習慣をつける(プロパン)</li> <li>・安全装置付きに替えておく</li> <li>・家具の固定</li> </ul>						
	消防組織(消防団が地区毎にあるが)高齢化してきている										
ライフライン	食料不足の不安	食料	日用品(日常必需品)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気が止まったら井戸水が使えない</li> <li>・発電機を各地区で設置</li> <li>・各戸で飲み水を確保しておく</li> <li>・飲み水の確保</li> </ul>							
	井戸の水が使えなくなる	地域ヘリダーの委嘱(任意)をしてはどうか	部落民を対象にして行政の説明								
	ライフラインが切れたときの対策										
山津波・山崩れ	南海地震に対する意識の差が大	中山間は大きな川等なく(山津波)、人家散在、こうした中での事前対応	各情報が海津波で、中山間対策が乏しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期避難の指示ができる体制づくり</li> <li>・危険箇所の確認と周知</li> <li>・指定(山くずれ)</li> </ul>							
災害弱者	地域的に山崩れなどの心配は少ないが、地震発生時には高齢者などへの伝達・避難の方法をどうすればよいか	お年寄りのみの家庭が多く、家からの脱出が困難	疾病者の手当て手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織訓練</li> <li>・情報の共有(どこで寝ている)</li> <li>・消防、福祉事務所を把握</li> <li>・個人情報のかきみでむずかしくなっている(プライバシー)</li> <li>・防災委員が活躍している</li> <li>・「どこで寝てる」の情報</li> <li>・普通のつきあいを大切にして人間関係を深める</li> <li>・防災マップは整備されている</li> </ul>							
	家に押し潰された人を助ける方法	災害弱者救助	お年寄りの人数が多いので助け合うことが大変								
	独居老人の誘導	避難集合場所に来ていない者のチェック 自主防災組織	高齢者の寝室がどこにあるか近所で知り合う								
	地震発生初期の気構え	中山間で起こりうる災害事象を説明してほしい									
—	津波は山田堰まで	津波の直接被害はないと思われる	—								

見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	誰 が			いつ		
					自分	地域	行政	今から	その時	被災後
どこまで準備したらいのかライフライン	水、食物がなくなってしまう	増築で井戸をつぶしてしまった	ライフライン(道路、電気、水道)が壊れる事	<ul style="list-style-type: none"> <li>高知県単独あるいは小地域単独での3日間の食料備蓄</li> <li>食料確保の企業協力推進のための条例</li> <li>経験者(高齢者)の活用</li> <li>究極の地産 授業に"食べられる山野草"などの講座を取り入れる</li> <li>公共井戸整備</li> <li>山田にはまだ井戸がある</li> <li>自然エネルギー活用推進</li> <li>役に立つ道具、認定制度</li> <li>地産地消 農地活用</li> <li>間伐材 伐採許可</li> </ul>						
	ライフラインの確保ができるか心配	食料確保に困る	燃料確保に困る							
	家で何日分の水や食べものを保存していいのかわからない									
災害弱者への対応<障害者>	知的障害者の入所施設は避難にとっても困るだろう みんなパニック	要介護高齢者や難病患者の避難誘導の仕方	近所の知的障害者は逃げ切れるだろうか	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報保護法緩和の特例</li> <li>地域医療機関の準備</li> </ul>						
<高齢者>	独居老人を助けられるか？ どこにいるのか？	地域には高齢者(独居老人)が多い為、その人達の対応が心配される								
<子ども>	赤ん坊のオムツやミルクの確保ができるか？									
<病気への対応>	持病の薬が切れたら死んでしまう	死傷者に対する早急な対応(医療)が出来るかが心配である								
ここでいいの？避難場所	避難場所の場所が不明	避難場所がわからない	避難場所がわからない	—						
	隣の病院の耐震性は大丈夫か？	避難場所へ行くのに金谷川を通る道がつかえたら行く場所がない	ジャスコに逃げると言われたが本当に大丈夫？							
	家族がバラバラ(昼間)なので、その地域の避難場所がわからず困る									
正確な情報がほしい	遠方からの家族の状況がわかるか	バラバラになっている家族との連絡がとれるだろうか？		—						
孤立	山津波(土石流)が発生し、山ぞいの集落が危険にさらされるのではないかと	山地で孤立するの	で困る	<ul style="list-style-type: none"> <li>迂回路整備</li> <li>予防訓練 重機操作訓練</li> <li>重機供与協定</li> <li>移動手段の超法規(モノ)措置(人)</li> <li>オフロードバイク隊</li> </ul>						
人と人とのコミュニティが大事	新興地域なので交流が地域にない(昔から居る人との交流がない)	避難場所で見ず知らずの方たちと共同生活ができるかが不安	野市は(特に我が部落)、意識が低く自主防災組織が立ち上がらない	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区拠点に防災センター設置</li> <li>地区に民間の専門委を</li> <li>災害ボランティアコーディネートの仕組みを構築</li> </ul>						
耐震(ちょっと広い意味)	我が家の安全	自分の家が大丈夫か不安	耐震診断は3,000円で簡単だが、耐震補強は高すぎて困難	—						
いつくるの地震！	いつ来るのか？確率ではわからない	直前予知の為に猫を飼っているが、その猫が役に立つか？		—						
—	地震後の正確な情報が把握できるのか デマにまどわされぬか	火災が心配	避難時に他人の家などに侵入してもいいか？	—						
	屋に地震がきたら家にいる犬とネコが心配	ダム崩壊したらどうなる								

見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	誰 が			いつ		
					自分	地域	行政	今から	その時	被災後
生活支援	ライフラインの断絶(水・電気など)	ライフラインが止まるので生活に不便を感じる	食料や水は、与えられるのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で3日分の食料水を確保しておく</li> <li>・防災備品を充実させておく 地域で役割を大まかに分担しておく</li> </ul>						
	物資の確保、提供してもらえるのか	山間部なため支援が届きにくい	震災後、物資や食料、仮設住宅は充分足りるのか							
家族との連絡	家族の安否連絡がとれにくい(どこで何をしているか？とても心配)	避難場所の共有をしていない	自分と家族の安全度がわからない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害伝言ダイヤルがNTTドコモにあるので、日頃から家族でやり方をレクチャーしておく</li> <li>・できるだけ早く家族全員で決め事を話し合っておく。災害ダイヤル等</li> <li>・家族での災害に対する会議(家族災害マップ作成)</li> </ul>						
	家族の安否(連絡がとりづらそう)	連絡がとりづらくなる(家族とか)	仕事先で被災した場合、帰宅できるかも一子どもはどうしたら？							
避難場所	避難場所に人が集まってくるが、全員収容できるだろうか？	避難場所まで安全に着くことができるのか	避難場所が適切かどうかの判断が難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数家族で適当な避難場所、経路を決めておく</li> <li>・町内での避難訓練の実施</li> <li>・普段から住民を把握するために、行事などに積極的に参加する</li> <li>・近所の寄り合い等に参加していく(情報交換)</li> <li>・地域の行事等に参加し、地域住民との交流をもつ</li> </ul>						
	避難後、他の方々の救出、etcの連絡が決定されていない	避難場所に行って、入れるのか？(人が多いので)	近所とのネットワークが薄い							
	避難場所まで行けても、そこでうまくやれているか？(ほとんど知らない人はかりなので…)									
災害弱者	子ども、障害者、高齢者の安全が心配	近所の老人や弱者の情報がわからない 分かる情報の確立	避難場所まで少し遠いので祖父母が心配	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭の構成をあらかじめ報告して、まとめておく</li> <li>・日頃から近所とのつきあいを</li> </ul>						
	自宅周辺は古い家や高齢者が多く、近所の力だけでは救助できない	近所にはお年寄りが多くその際の救助	近所にどのような人が住んでいるのか把握されていないのが現状							
	近所づきあいがなくて、取り残された場合発見が遅れる。	一人暮らしの老人の救出に人手がいる								
家屋の倒壊	住宅密集地なので火災がおこったら大変	マンションに住んでいるので崩れないだろうか？(2Fなので)	家屋の倒壊後の家の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震診断、対策を行う</li> <li>・補強工事の必要性の調査</li> <li>・家具の補強</li> </ul>						
	家屋倒壊が多いと思われる(古い家が多い)	家の中で寝ていたとき、上から窓ガラスが割れて落ちてこないか(タンスも含む)								
災害	山間部なため津波の心配はないが、山や木などが崩れ、家屋が心配	目の前に吾岡山があり、地震で崩れないか(山を削っているのが低いからこまで流れてくるか)	津波による被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震がおきたらとにかく逃げる</li> <li>・災害の予測をあらかじめ明確にしておく</li> </ul>						
住民意識	県民(特に若者)の危機感があまりない	実際にどうしていいかわからない！ 訓練などしていない	市町村で孤立した場合の住民意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再度、各地区の防災備品をチェック</li> <li>・防災会を立ち上げる 地区各々で(50~100世帯)</li> <li>・数字で言われてもピンとこないので映像で視覚に訴える</li> <li>・特に若い人たちの意識が弱いため、学校などで地震について知る(南海地震の経験者などでの講演など)</li> <li>・自主防災、町内会で行っているところもあるけど、できていないので義務づけて(市町村)やればどうか？</li> <li>・災害に対するシミュレーション・研修会を今年度中に開催(市全体)</li> </ul>						
情報の入手	地震の情報を知ることができるのか			<ul style="list-style-type: none"> <li>・手動式ラジオを常備しておく(充電式)</li> </ul>						
医療機関数	病院は足りているか			トリアージの訓練をしてもらう						
緊急車両の通行路の確保	近所の家のブロック塀の倒壊→通行困難			生垣やフェンスに変えていく						